

2026 年 8 月 20 日(木) ハコラク 9 月号 掲載

医療の現場から『入院から退院を見据えた支援～医療ソーシャルワーカーの仕事～』

医療福祉相談室 菅野 貴規 MSW(社会福祉士)

入院から退院を見据えた支援 ～医療ソーシャルワーカーの仕事～



函館中央病院

医療福祉相談室 MSW(社会福祉士)

菅野 貴規 さん

突然の病気やケガでの入院は、患者さんやご家族に大きな動揺をもたらします。

退院後の生活や仕事、経済的な問題など、不安や悩みを抱えても、どこに相談したらいいのか分からないと感じる方も多いのではないのでしょうか。

そんなときに頼りになるのが「社会福祉士」です。社会福祉士は、生活に困りごとを抱えた人の相談に応じ、必要な制度やサービスにつなぐ

「福祉の専門職」です。さまざまな福祉制度について学び、相談を受けて支援するための知識と技術を身に付けています。

病院に所属している社会福祉士は、「医療ソーシャルワーカー(MSW)」として配置され、入院した患者さんやご家族の「退院後の生活」や「医療費」などの不安を、福祉の専門知識で解決へと導く相談窓口です。患者さんやご家族に対し、病状の回復に合わせて退院後の生活をイメージ

していただき、リハビリ病院や施設での療養が必要な方の調整、介護保険サービスや障害福祉制度の活用、医療費の支払いに不安がある場合の公的制度のご案内など、個別具体的な支援を提案します。

医師や看護師、リハビリ専門職などと連携しながら、安心して治療に専念できる環境づくりをサポートし、退院後も住み慣れた地域で生活できるように、ケアマネジャーや訪問看護師への橋渡し役も担います。医療ソーシャルワーカーという名前は耳慣れないかもしれませんが、患者さんやご家族の不安を和らげ、安心して次のステップへ進むための「人」と「制度」と「地域の支援」をつなぐコーディネーターのような存在です。

「こんなことを相談していいのかな」「迷惑ではないかな」と心配される方もいますが、社会福祉士は、まさにそうした不安や迷いを受け止めるためにいます。困りごとが大きくなる前に早めに話してもらうことで、負担を軽減できる場合も少なくありません。

ご自身の生活や療養について少しでも悩むことがあれば、一人で抱え込まず、医療ソーシャルワーカーへご相談ください。